



ものづくり、世界ナンバーワンのすすめ 〜突き抜けた目標と発想で「にっぽん力」を引きだす〜

日本イノベーター大賞2008 優秀賞
株式会社フライングパーツ

社長 黒田 義光 氏

人間の中に「ある」力を、「やる」力へと変えるためには、明快な目標を掲げることが大切ではないでしょうか。世界ナンバーワンのものづくりに私がこだわり続けてきたのはそのためです。

まず、目標を明快にすることがトップの役目です。その目標に向かって毎日社員にガンバレと言ってあげる。やる気のない人にこそ、明らかな目標を示してあげるべきだと私は思っています。人間には闘争心があります。目標のためには全力を振り絞ってがんばれるのが人間です。

率先垂範することも重要です。例えば一年半の間、一日も休まず製品の開発で格闘していた私の姿を社員は見ています。その製品が、ボールペンのボールを押し出す微小スプリングとして、世界中に広まったのを知っています。私がやればできるという手本であり、見本です。相当に努力しないとフライングパーツの開発メンバーにはなれませんが、若い人にとっては、ナンバーワンのものづくりをするメンバーに加わるのが、最初の目標になります。

黒田 義光 氏について

黒田義光氏が率いる株式会社フライングパーツ(横浜市)は、超精密スプリング分野の世界的メーカーです。もともと自動車販売員だった黒田氏が、営業先との会話から微小なバネの将来性に気づき起業。その先見性と、社員数32人と小さな会社ながら、微小なバネを実現する技術開発力が、日本のものづくりパワーを示す好例として日経BP社主催「日本イノベーター大賞2008」の優秀賞を受賞しました。

世界のどこにもできなくて、回り回って、フライングパーツに依頼が来る。世界中のメーカーがムリだと首を振っても、ウチならやれそうだと答えられる。そんな会社にフライングパーツはなりました。圧倒的なシェアを持つ、携帯電話本体と充電機の接続用スプリングは外径1ミリです。半導体の通電検査装置に使われるものになると、女性の髪の毛よりも細い外径65マイクロメートル。超精密スプリング分野では名実ともにナンバーワンと自負しています。

それでも、今に満足はしていません。もっとスプリングは小さくできます。そんなに小さくして何に使うのだろう、どこが買ってくれるのだろう、と疑問に思う方もいらっしゃるでしょう。今まで誰も気づかなかった用途が必ずあります。20数年前もそうでした。使い道が見かたない、小さなスプリングの用途を見つけ出したところから、フライングパーツの歩みが始まっています。そうした技と使い道の開拓、技術と用途との切磋琢磨を繰り返しながら、超精密スプリングの分野を広げました。

「このスプリングがあったから、この製品を作ることができた」と言われるような、独自性のあるものづくりには、技術力の高さはもちろんのこと、突き抜けた発想力が欠かせません。これはスプリングだけでなく、ものづくり全般に当てはまることでしよう。

よそでは容易に作れないようなものを、ウチは発想していく。頼まれれば、何でも作ってみせる。そんな職人気質がある限り、日本のものづくりの可能性は絶対に広がります。

日経BP社 創立40周年記念企画 「にっぽん力」について

この40年の間に急速なグローバル化を進め成長してきた日本経済も、世界経済が閉塞感を強めるなか、景況が悪化しています。しかし日本の底力とはこんなものでしょうか。日経BP社は創立40周年記念企画の二環として、日本の底力にスポットを当てた総力企画「にっぽん力」を約1年間の長期シリーズでお届けします。

いま企業はどんな力を宿し、何に挑み、何を生み出そうとしているのか。マネジメント、環境、人材、伝統などさまざまな角度から、「にっぽん力」を検証していきます。ご期待ください。